



とぎのこえ Good News for Japan

人の道～施し分かち合う世界

藤井 健次



昨年、チリを襲った洪水の被災地での支援の様子

ある日の朝礼で、校長先生がお話をしました。「お風呂に入ってお湯を温める時、熱くなったお湯を自分の方に寄せると逃げ人になってください。」

これは、わたしが中学生の時に聞いた言葉ですが、今でも印象に残っています。イタリヤのある教会にあるという、ソロモン王の壺の伝説を聞いたことがあります。

ソロモン王は、シバ(新共同訳聖書ではシエバと表記)の女王から贈られた美しいエメラルドの壺を大変気に入り、その壺に延命長寿の妙薬を入れてしっかりと封をしました。長年の間、側近や善良な市民、友人が、その薬を使うことを願っても断り続け、ソロモン王の側近も友人もやがてこの世を去りました。そして、ついにソロモン王自身が病床上に臥す身となった時、王は壺の中にある延命長寿の妙薬のことを思い出し、ようやく封を切ったのです。ところが、その妙薬は、出し惜しみするうちにすっかり蒸発し、一滴も残っていませんでした。

聖書の言葉に、「施し散らして、なお富を増す人があり、与えるべきものを惜しんで、かえって貧しくなる者がある。物惜しみしない者は富み、人を潤す者は自分も潤される」(箴言11章)

謹んで被災された方々にお見舞いを申し上げます。一日も早い心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

24、25節 口語訳聖書

人間としての真の幸福は、「わたしが」という我執から離れて、わたしの目の前に立っている「あなた」という存在に目を留め、心と手を分かち合うことではないでしょうか。あなたの手にパンが二つあって、その一つを飢えている人に分けるなら、この世界には「ありがとう」の音が響き渡ることでしょう。

イエス・キリストも言われました。「受けるよりは与える方が幸いである」(使徒言行録20章35節)

と。そして、自らの命をわたしたちの救いのために与えてくださったのでした。イエス・キリストご自身が、施し、分かち合う世界をわたしたちに現してくださいました。

救世軍では、三月から四月にかけて「克己週間」と呼ぶ募金をおこないます。自分にとって大切なものを何か我慢(克己)して、必要

を覚える働きのために献げるといふ世界の中の救世軍でおこなわれる募金運動です。これは、特に、海外の開発途上国における職業訓練、識字教育、衛生教育などによる自立支援、エイズ対策プログラム、貧困対策などに用いられています。折しも、今年は、克己週間募金が日本で始まって、百二十年を迎えます。分かち合うことによって祝福される世界が、ますます広がるよう、この働きに加わる方が増えることを願っています。

最後に、聖書の言葉を贈ります。「神は……あらゆる恵みをあなたがたに満ちあふれさせることができようになります。『彼は惜しみなく分け与え、貧しい人に施した。彼の慈しみは永遠に続く』と書いてあるとおりです……その施しは、わたしたちを通じて神に対する感謝の念を引き出します。』(コリントの信徒への手紙、一 9章8〜11節)

(救世軍士官(伝道者))

東京・神保町の古書店街のそばに救世軍神田小队(教会にあたる)があります。ここに所属している信徒で、とても仲の良いいご夫妻にお話を伺いました。

—森さんと山崎さんは、ご結婚されて何年になられましたか。

森 今年で八年目になります。二人ともだいぶ前に伴侶を亡くした、再婚同士です。この結婚で、私の子ども二人に妻の子ども三人が加わって、五人になり、一人の孫まで与えられました。感謝ですね。

山崎 本当に！ 私は子ど

もが三人とも男なので、夫の娘とは大の仲良しになりもう、会うとおしゃべりが止まらないんですよ。ただ、私共は、高齢での結婚ですし、子どもの立場を尊重し、姓は今までのままでいきましよう、と決めています。

—お二人の出会い、どのようなところで……？

森 いろいろなアマチュア合唱グループの方が集まる場で、百五十人くらいの方がいました。

山崎 八年前、私が属している救世軍神田小队の開設百十周年記念集會がおこなわれました。午前は聖別会

と呼んでいる礼拝で、午後コンサートがありました。それで、合唱グループの皆さんを、この午後のコンサートにお誘いしたのです。

—森さんだけを誘われたのではないのですか。

山崎 ええ。音楽愛好の皆さんに声をかけました。その時は、特に夫のことを意識していませんでした。コンサートには十人くらいの方が来てくださいましたが、夫は、午前中から出席したのです。

森 いやあ、礼拝から出席して、本当に良かったですよ。良いメッセージを聞きました。私は神道と仏教に

熱心な家に育ち、その時までキリスト教とは全く無縁な世界に生きていました。そんな私でも、この初めて聞いたキリスト教のメッセージは、心地良く、胸にストンと収まるものでした。午後のコンサートもとても素晴らしく、その日以来、キリスト教に前向きになっていったのです。

—その森さんをご覧になって、山崎さんは？

山崎 礼拝にまで出席して驚きました。その日から心惹かれるようになりました。その後は、不思議な神様のお導きとしか言いようがない展開で、二カ月後には結

婚ということになりました。それから、夫は毎週、礼拝に出席し、小队にも自然に溶け込んでいきました。夫は、以前から、煙草はもちろのお酒も飲まない生活だったので、救世軍に属することに全く抵抗はなかったようです。

森 もともとお酒に弱い体質だったんです。会社勤めの頃は酒席に出ることも多かったのですが、周りも私が飲めないことを知っていたので、幹事役に徹していましたね。

—ご家庭をもたれて、生活が変わりましたか。

森 結婚生活と信仰生活が同時進行のような形でした。以前は、世俗的な生活で、本当の平安はなかったように思いますが、今は、生活の中で二人で聖書を読み、共に祈り、様々な所で神様に守られているという体験をして、平安な生活が得られています。これが大きく変わったことですね。

私も妻も、以前からボランティアや趣味の活動など、積極的におこなっていました。それは結婚後も変わら

ず続けていますが、私は新たに、妻の母校の大学の合唱団に加えてもらい、また妻が以前から自宅で開いて



森さんの娘さんの結婚式の日に、両家のご家族と(後列左端とその隣り)

いた「幹教室」(歌の会、粘土工芸教室)に、私が指導する太極拳も加えました。

山崎 太極拳は、神田小队でも太極拳教室としておこなうようになりました。夫

は、小学校での放課後のボランティアもずっと続けていて、子どもたちと駆けつけてもまだ負けない、と喜んでいいます。年が年ですから、私はハラハラしているんですが。

森 はい。いつ、何が起こるかわかりませんから、気をつけなくてはなりませんね。(笑) そうそう、去年は、本当にびっくりしたことがあったんです。

—どういうことですか。

森 昨年の八月、親族の初盆のために、九州に私一人で行った時です。親戚の家

<インタビュー>

一人でも多くの方に 神様の愛を伝えたい



もり しょういち 森 昭七さん やまざき きみえ 山崎 幹枝さん

に泊まりました。夜中にトイレに行こうとして、誤って階段から落ちてしまったのです。七段も転げ落ちました。頭を壁に打ち付けて、壁に大きな穴があきました。ものすごい音がしたようで、家中、大騒ぎになりました。でも、壁にぶつかった額に傷こそつきましたが、他はなんとともなく、骨折もありませんでした。私は、神様が守ってくれたのだ、と思いました。

山崎 夫が額の半分を打撲で真っ黒にして帰って来た時は、本当に驚きました。すぐ病院に行つて脳波など調べてもらいましたが、異常なし。ついでに調べてもらったら、脳梗塞も見られませんでした。

森 私を見てくださった医者、「森さん、あなたは勝利者です。勝つたんですよ」と何度もおっしゃいました。不思議な表現ですよ。私は妻と二人、これは神様の御業だ、と心から感謝を献げました。

「神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。」



―守られたのですね。さて、**山崎**さんは、いつ、救世軍の信徒になられたのですか。
山崎 私の両親は救世軍の信徒で、父は救世軍の社会福祉施設や本部で働いていました。信仰熱心な両親の下、小さい時から日曜学校に休むことなく通い、高校生になってから、兵士(正式な救世軍の信徒)となりました。
でも、それは、今思うと、敷かれたレールの上のことだったようです。大学を卒業して教師になり、結婚を機に、信仰生活から離れてしまったんです。子どもが生まれたこともあり、ほとんど小隊に行くこともなく忙しく日を送るようになりました。そんな中、母は私に代わって三人の子どもたちの面倒を見てくれました。毎週日曜日の夜、東京都心から電車に乗って、当時住んでいた埼玉県の春日部まで来てくれて、土曜日に戻って行くのです。ありがたかったです。

―このような生活はいつまで続いたのでしょうか？
山崎 転機は、夫が四十一歳の若さで亡くなって訪れました。中三、中二、小五を抱えて、教師としての毎

日を送らなくてはならない……、もう、神様により頼んで生きていくしかない、と初めて真剣に祈るようになりました。その時、与えられた聖書の言葉は、
「あなたの重荷を主にゆだねよ。主はあなたを支えてくださる。」
（詩編55編23節）

―小隊ではどのようなことをされているのですか。
山崎 私は、日曜学校など青少年部の働きの責任をもっています。それと、自分の周りの方を小隊にお誘いする活動のリーダーのような役目も。その他、他の信徒さんと共に、救世軍がおこなう様々なボランティア活動や募金活動をおこなっています。

夫は、小隊の活動には何でも積極的に参加し、特に春と秋におこなう募金―



ロンドンでの救世軍万国大会の時

軒一軒訪ねて趣旨を話し、寄付金をいただく活動―に喜んで従事しています。
森 私は人と会うこと、話すことが好きですので、ぜんぜん苦にならないのです。妻と一緒にいくこともありますし、私一人で行くこともあります。この募金を通して、たくさん知り合いや友人ができました。この中から小隊に足を運んでくださる方もおられます。

―お二人にとって、昨年のトピックのようなものはありますか。
森 はい。去年は救世軍の働きが始まって百五十年の節目の年でした。それを記念して、七月にイギリス・ロンドンで救世軍万国大会が開かれたのですが、その大会に、夫婦で参加できたことです。とても素晴らしいことでしたよ。

山崎 世界各国から一万五千人以上が集まりました。

ザ・O₂アリーナという、ロンドンオリンピックの会場になった場所で、神様をほめたたえる様々な音楽、世界の救世軍の指導者アンソング、また各国の伝道者や信徒の方々の信仰の体験談を聞き、改めて神様の素晴らしさ、神様を信じることの幸い、そして宣教の力強さを感じました。

―良い経験をされましたね。では、今年のお二人の抱負はどのようなことですか。
森 妻と共に「幹教室」の活動を続けること、小隊でおこなっている太極拳を地域に広げること、同じく柏寿会という高齢者のための集まりを通して、小隊を地域に開かれた場所にするのと、です。

山崎 「幹教室」の方々を大切にしていきたいですね。昨年の教室のクリスマス会には、四十人を越える方々が参加されました。小隊を会場にお借りして、小隊長

（牧師にあたる）にメッセージ
□ 私の近くの救世軍を紹介してください。
□ キリスト教についてもっと知りたいです。
□ 「ときのかえ」の購読を申し込みます。

ご住所
ご氏名
〒
（神田小隊(教会)所属）



2015年、「幹教室」のクリスマス会参加者

裏
この部分を封書か葉書に貼り、面下の救世軍にお送りください。

創立者

ウィリアム・ブース

大將

アンドレ・

コックス

(万国本營

英国ロンドン)

日本司令官

勝地

次郎(救世軍本營

東京都千代田区

http://www.salvationarmy.or.jp



世界をみつめて

〈スイス〉 難民を迎えてコーヒータイム

スイスのチューリッヒにある救世軍では、毎週金曜日にコーヒータイムを設け、主にアフガニスタンから逃れて来ている男性の難民との交流の時をもっています。

毎回、約45人の男性が集い、温かい飲み物やお菓子を囲んで、おしゃべりをしたり、救世軍の関係者から寄付された冬物衣料を受け取ったり、ドイツ語を教えてもらったり、とスイスでの生活になじむための助けとなっているということです。



ここでボランティアをしている救世軍のメンバーは、この交流が良い経験となっている、と語っています。「わたしたちは、難民の皆さんに敬意をもって接しています。お互いに恐れや偏見が取り除かれているのです。この交流を通して、わたしたちは、わたしたちの国が彼らを歓迎していることを表しています。イエス様がそうされたように、同じ目線に立って交流し、救世軍に託されたこととして、難民の人々に手を差し伸べる働きを進めている

現在、四十四の小隊(教会にあたる)と十二の分隊(伝道所にあたる)、二十の社会福祉施設、二つの病院(ホスピス併設)での働きを通して、神の愛を伝えていきます。

のです。」

スイスの救世軍では、他にも小隊(教会にあたる)や、農家を利用した難民センターを通して、難民を受け入れています。

〈日本〉 豪雨の被災地支援

2015年12月31日、9月に鬼怒川の堤防決壊により大規模な洪水に見舞われた常総市で年越しそばの提供をしました。

常総市の「市民の広場」で午前11時から提供を開始。そばとそばつゆの器を分けて持ち帰られるようにし、餅を入れた「ぜんざいセット」も添えました。ほとんどの方が、ご家族の分も受け取られ、計520食の提供となりました。

一見すると被害の跡がない街中ですが、未だに一階が使えず、二階で生活しているなど、不自由な暮らしを強いられる、生活の建て直しができなかつたりしている方々も多いとのこと、長期的支援が必要とされています。



救世軍とは

The Salvation Army

プロテスタントのキリスト教会で、一八六五年に創立されました。本部はイギリスのロンドンにあり、現在、世界百二十七の国と地域で活動しています。

創立者のウィリアム・ブースは、その人の一番必要としているものを提供しないで神の愛を伝えることができないと物心両面からの救いを目指しました。貧しい人々、悲惨な状況に置かれている女性や子ども、アルコールのために生活が破綻した人、災害被災者……の必要に応え、問題を解決するために、ブースは様々な働きを起しました。それらはどれも緊急を要するものであることから、迅速に実行に移せる軍隊流の組織をとりました。信徒はアルコール抜き、ライフスタイルをとり、活動に参加しています。

アンドレ・コックス大將及びシルヴィア・コックス中將を迎えておこなわれる

2016年救世軍全国大会のお知らせ

〈主な集会〉

◆ 10月21日(金) 18:30

救世軍チャリティーコンサート

東京オペラシティ コンサートホール (東京: 初台駅下車)

出演: 東京フィルハーモニー交響楽団、指揮 秋山和慶

(ヴァイオリン) 大谷康子、(オルガン) 内海恵子

救世軍アメリカ西部スタッフ・ソングスターズ

(U.S.A. Western Territorial Staff Songsters・合唱団)

救世軍ジャパン・スタッフ・バンド

※ 17:45 ~ ホールホワイエでアメリカ西部スタッフ

・ソングスターズと救世軍ジャパン・スタッフ・

バンドによる演奏と献金アピールがあります

救世軍アメリカ西部スタッフ・ソングスターズ

◆ 10月22日(土) 14:00 公開集会

日本教育会館 一ツ橋ホール (東京: 神保町下車)

◆ 10月23日(日) 10:00 大会聖別会(礼拝)

日本教育会館 一ツ橋ホール (東京: 神保町下車)

お問い合わせは、救世軍本營 伝道事業部へ 03-3237-0881

両集会には

どなたも参加できます

社会鍋募金へのご協力、

ありがとうございました

2015年12月、全国の主要都市でおこないました。東京地区では、12月10日~31日に銀座、渋谷、新宿、上野、池袋などでおこなわれた社会鍋募金に、11,427,251円(当期募金額)が寄せられました。全国の募金結果は追って報告いたします。

皆様から寄せられました寄付金は、国内外の緊急災害支援や街頭生活者支援、障がい者支援施設、保護家庭、一人暮らしの高齢者などへの支援に役立たせていただいています。



← 東京 ↑ 大阪

発行所 救世軍本營
印刷所 救世軍本營
電話 東京(03)3337-0881
〒101-0051 東京都千代田区
編者 齋藤 恵子
印刷兼 代表者 勝地 次郎
編集人 齋藤 恵子

(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価

発行日 毎月一日・十五日

定価 一日号一部五〇円(六六円)

十五日号一部六〇円(六六円)

クリスマス特集号(十二月一日号)

一部一〇〇円(七七〇円)

一年分二七〇円(送料七五〇円)

振替・〇〇一八〇五四四〇〇